

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 総合数理学部の理念・目的は適切に設定されているか							
a ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	総合数理学部は、建学の精神に基づき、「『社会に貢献する数理科学の創造・展開・発信』を理念とし、グローバル社会に対応する教育研究を通じて、『知識基盤社会』の構築に貢献するとともに、社会の持続的発展と文化・福祉の向上に寄与すること」を目的として2013年4月に学部を開設した。これまで本学において培われた数理科学教育、情報科学教育の経験と実績をもとに、世界から求められる新しい教育研究を展開し、本学の更なる革新の推進を担うこともその使命としている【1-11-1:182頁】。そして、これら学部の理念・目的は、明治大学学則別表9において学科ごとに「人材養成その他の教育研究上の目的」を定め、現象数理学科では「数理科学の理論・応用及びコンピュータを用いて数学と社会をつなぐ架け橋となる人材」、先端メディアサイエンス学科では「人に精神的豊かさをもたらす先端メディア技術の実現を目指した教育と研究を通じて、情報技術産業に高い付加価値を与えることができる人材」、ネットワークデザイン学科では「数理科学に基づき事象をモデル化する力と、ネットワークシステムを支える工学知識の修得を通じて、洞察力と現実的な問題解決力を備えた人材」を養成する、と規定している【1-11-2】。これら理念、目的は、数理と情報についての先端的知識と技術並びに健全な社会常識の教授を主眼として、社会の持続的発展と文化・福祉の向上に寄与することを謳っており、学校教育法等関係法令に照らして適切といえる。					1-11-1 2015年度教育・研究に関する年度計画書182頁 1-11-2 明治大学学則別表9	
b ●当該大学、学部・研究科の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】	「社会に貢献する数理科学の創造・展開・発信」「知識基盤社会の構築への貢献」「社会の持続的発展と文化・福祉の向上への寄与」を掲げており、学部の目指すべき方向性を明確にしている。						
(2) 総合数理学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか							
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	本学部の理念・目的は、教職員及び学生に対しては、学部便覧【1-11-3 9頁】に掲載し、さらにガイダンスや学科ごとのオリエンテーションにて周知している。また社会一般に対しては、ホームページ【1-11-4】や学部ガイド【1-11-5】、特に受験生については入学試験要項【1-11-6】によって公表している。 なお、理念・目的をより分かりやすく伝えるため、学部紹介動画や教員の研究テーマに関連するコラムをホームページに掲載している【1-11-7】。 また、全学部生の必修科目として開講している「総合数理概論I・II」【1-11-8 46頁】において、現代技術の背景にある数理科学・情報技術の役割をテーマとして各学科教員がオムニバス形式で授業を実施し、理念の浸透を図っている。	研究紹介コラム「数理のチカラ」を更新した。各学科4名、計12名の教員が、自身の研究と社会との関わりについて解説し、受験生に対して、理念・目的の周知を図った。	一期生となる2013年度入学者の就職活動の開始等を鑑みると、社会一般に対する理念の周知がより必要である。	学部の教育研究活動を、様々な側面から継続的に周知する。	完成年度に卒業生を輩出することを視野に入れ、就職・キャリア支援委員会等において、企業に向けて学部の理念・目的を周知する方法を検討する。	周知方法及びその成果について検証する。	1-11-3 2015年度総合数理学部便覧9頁 1-11-4 総合数理学部ホームページ[人材養成その他教育研究上の目的] http://www.meiji.ac.jp/ims/outline/purpose.html 1-11-5 2016年度総合数理学部ガイド(抜粋) 1-11-6 2015年度明治大学入学試験要項(学部一般入試, センター利用入試, 全学部統一入試)9頁 1-11-7 総合数理学部ホームページ[動画で知る総合数理学部][数理のチカラ] http://www.meiji.ac.jp/ims/movie/index2014.html http://www.meiji.ac.jp/ims/chikara/index.html 1-11-8 2015年度総合数理学部シラバス46頁

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(3) 総合数理学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	<p>本学部の理念・目的は、開設前年の2012年度に、社会における人材需要の動向及び学生確保の見通しを踏まえ定められた。学部は2016年度に完成年度を迎える。今は設置計画を履行し、掲げた理念・目的を実現する過程にあることから、変更の必要性は生じていない。</p> <p>なお、学部の教育・研究方針を教授会員で改めて共有することを目的として、2015年4月9日開催の教授会において確認を行った【1-11-9】。</p>		<p>今は社会との約束である設置計画を確実に履行する時であるが、同時に、学部理念・目的から教育課程に至るまで、設置計画の有効性についても適切に評価・検証を行い、学部運営に活かす必要がある。このような検証について、プロセスが具体化されていない。</p>		<p>理念・目的の具体的な検証プロセスや、何をもちいて評価とするか、必要となる情報について検討する。</p> <p>2017年度には接続する大学院の専攻増設を行うことから、大学院との一体的な教育を踏まえた検証を行う。なお、検証結果によって、必要に応じて理念・目的を見直す。</p>	1-11-9教授会議事録(2015年4月9日)確認事項3

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 総合数理学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか							
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	本学部の教員組織の編制方針は、「学部理念の実現、文理の垣根を低くするための幅広い教養教育及び3学科にわたる多様な専門教育を維持・発展すること」を「教育・研究に関する年度計画書」に明示し、これを学部教授会で承認することで共有している【3-11-1:184頁】。 本学部は、新設学部としての必要手続として、2012年度に完成年度までの任用計画を策定し、任用を行った。任用にあたっては、「将来における学部の教育研究活動の推進に資することのできる能力と資質を持つ人材」を求め、「授与学位の分野において高い教育研究実績を持つこと」、「明確な科目適合性を有すること」、「グローバル化人材育成に対応するための英語による教育能力を有すること」も求めた。		教員組織の編制方針及び求める教員像について、現状は「教育・研究に関する年度計画書」への記載に留まっており、その具体化が必要である。		執行部会議において、教員組織の編制方針及び求める教員像を検証し、「総合数理学部における教員等の任用および昇格に関する内規」に明示する。	完成年度以降に行う理念等の見直しに合わせて、教員組織の編制方針及び求める教員像の検証・見直しを行う。	3-11-12015年度教育・研究に関する年度計画書184頁《既出1-11-1》
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	教員の募集・任用・昇格にあたっては、「明治大学教員任用規程」【3-11-2】、「総合数理学部における教員等の任用および昇格に関する内規」および「総合数理学部における助手の任用及び制度の運用等に関する内規」により明文化している【3-11-3, 3-11-4】。						3-11-2 明治大学教員任用規程 3-11-3 総合数理学部における教員等の任用および昇格に関する内規 3-11-4 総合数理学部における助手の任用及び制度の運用等に関する内規
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	組織的な教育を実施する上で必要な役割分担と責任の所在について、教育研究事項にかかわる全ての意思決定は、専任教員が構成員となっている学部教授会において行う【3-11-5 第7条】。その他に、学部内の管理運営を円滑に行うことを目的として、執行部会議、学科会議を設けている。本学部は研究対象学問分野に基づき3学科により組織を編制しているが、学科会議には専門科目を主たる担当とする専任教員以外に、総合教育科目等を担当する専任教員が参加し、連携を図っている。各学科の教学委員は、学科長と十分連絡をとり、学科長の下で教学関係調整事項における合意形成をとる形態をとっている。また、各種検討事項を扱う常設委員会を設置し、学部の教育研究事項に関する事項について、検討を行っている【3-11-6】。2014年度は全学及び学部の重点的施策に対応するため、国際交流委員会と将来構想委員会を設置した。各委員会で検討されたことは、学科会議、執行部会議を経て、学部長が議長を務める教授会で審議し、最終決定することとしており、責任体制は明確である。		2017年度の大学院専攻増設を踏まえた学部内組織体制のあり方について検討が必要である。		執行部会議及び将来構想委員会において、大学院との一体化を踏まえた学部内組織体制を検討する。	学部と大学院の連携を組織的に確立する。	3-11-5 明治大学学部教授会規程第7条 3-11-6 2015年度総合数理学部学内委員会一覧
(2) 総合数理学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか							
教員の編成方針に沿った教員組織の整備							
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること(設置基準第7条第3項) 【約400字】	本学部は新設学部であることから、学年進行に従い教員組織を整備していく。 大学設置基準上の必要教員数は、現象数理学科8名、先端メディアサイエンス学科9名、ネットワークデザイン学科14名であり、これに対して、15名、16名、15名の専任教員を配置している。また、大学設置基準上の必要教授数は、現象数理学科4名、先端メディアサイエンス学科5名、ネットワークデザイン学科7名であり、これに対する専任教授数は6名、7名、5名である。なお、教授数について、完成年度を迎えるまでにこれを充足する計画である。 専任教員一人当たりの学生数は、学生現員を基礎として(全学データ受領後に入力)名である【3-11-7 表13】。 教員組織のバランスについて、専任教員の年齢構成は、60歳台3名、50歳台14名、40歳台10名、30歳台19名である【3-11-7 表10】。また、外国人教員1名、女性教員5名が在籍している【3-11-7 表14】。	今後、先端的・先導的な役割を担うことが期待される30歳台の教員が多い。文部科学省・科学技術振興機構「COI STREAM」への採択や、多くの教員が構成メンバーとなっている現象数理学研究拠点の「共同利用・共同研究拠点」への認定など、社会に貢献する先端研究の実現に向けた取り組みが行われている。	学部規模及び学際的な学問領域であることを鑑みると、教員数の増加が望まれる。女性教員数が少なく、優秀な若手女性研究者育成の仕組みが必要である。	先端研究の推進を今後も進めていく。	先端研究の一端を担う若手研究者の育成及び学部教育の質向上を目的として、助教の任用(特に女性助教枠)を計画・要望する。教育のグローバル化に対応する教員組織のあり方を検討する。	必要な教育分野を選定し、専任教員の任用を計画、要望する。	①現状の説明 3-11-7 明治大学データ集 表2 表10 表13 表14

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

<p>b ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】</p>	<p>教員組織の編制実態について、2015年度（1～3年生のみ在籍）の担当授業時間数の平均は資格別で教授（）時間、准教授（）時間、講師（）時間となっている【3-11-7 表12】（全学データ受領後に入力）。2015年度の学部開設科目総数に占める専任教員の担当科目の比率（専兼比率）は、開講科目の73.5%を専任教員が、26.5%を兼任教員が担当している。特に、必修科目は専任教員担当比率が高く、総合教育科目において兼任講師による多様な講義が行われている【3-11-7 表16】。</p> <p>総合数理学部では、数理的、論理的な基礎とコンピュータ技術を用いて、自然現象はもとより、社会・人文科学の分野における複雑な現象やネットワークの諸問題の理解と解決を目指した教育課程編成を行っており、教育課程の柱となるゼミナール及び卒業研究については、特任教員を除く全ての専任教員が担当し、学生と教員間の関係を密にした教育が行われる。また、専任教員全員が英語による授業を行うことが可能であり、国際的に活躍できる人材の養成に向けた教員組織を編制しており、教員組織の編制方針と整合している。</p>						<p>①現状の説明 3-11-7 明治大学データ集 表12 表16</p>
<p>教員組織を検証する仕組みの整備</p>							
<p>c ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】</p>	<p>本学部は、学部設置の理念・趣旨に基づき、2012年に専任教員の任用計画を策定した。完成年度までは、任用計画に基づき、教員組織を整備していく過程にあるが、学部の将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて、補充・増員すべき教員の主要科目、資格の検証を、執行部会議・教授会で行うこととしている。</p> <p>2014年度は特任教員3名と助手2名の任用を決定した。また、ネットワークデザイン学科の専任教授退任に伴う補充について、任用計画を検討した。</p>						
<p>(3)教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか</p>							
<p>a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】</p>	<p>教員の任用は、公募制を原則としており、求める能力・資質について、将来における学部の教育研究活動の一層の発展に資する人材と明示し、教育研究上の能力並びに大学・学部等組織の管理運営への貢献の実績や社会貢献活動についても審査を行うこととしている。本学部は開設前年の2012年度に、完成年度までの専任教員（特任教員を除く）の任用を決定している。なお、任用にあたっては、国際的に活躍できる人材を養成する教育を実現するために、英語による教育能力を有することを求めている【3-11-8 「7応募資格（3）」】。</p> <p>2014年度は、専任教員1名の昇格及び特任教員3名と助手2名の任用を行った。任用及び昇格は、大学で定める諸規程を踏まえて、「総合数理学部における教員等の任用および昇格に関する内規」【3-11-3】に従って適切に運用している。その際、候補者の資格、適性、担当授業科目等の適合性、教育能力、業績等について審査を行った。科目適合性の判定については、内規に必要な学術論文、学</p>						<p>3-11-8 総合数理学部（仮称）専任教員公募要領「7応募資格（3）」</p>
<p>(4)教員の資質の向上を図るための方策を講じているか</p>							
<p>教員の教育研究活動等の評価の実施</p>							
<p>a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】</p>	<p>教育・研究活動の活性化に資する業績の適切な評価として、ホームページにおいて教育・研究活動を適宜更新するなど、学内外に教員の教育・研究活動の情報発信を行っている【3-11-9】。特に学外における教員の表彰等は、教授会で報告するとともに、総合数理学部のホームページに迅速に掲載し広報の充実を図っている。</p> <p>また、教員の研究に関わる事項を検討する組織として研究委員会を常設している。研究委員会では、各学科の研究活動について情報共有を行っている他、2015年度からは、中野教育研究支援事務局担当が事務局として委員会に出席し、外部資金や科研費等募集状況等を説明するなどして、学部の研究活動の活性化を図っている。</p> <p>研究委員会における学部の研究活動の情報は、各学科所属の委員が学科会議において報告し、周知している。</p> <p>科研費の採択について、2015年度4月現在、課題総数28件、採択教員数は23名、採択者率は52.2%である。新規課題への申請数応募数は2014年度17件、2015年度26件と数を増やしている。</p>	<p>2014年度在籍教員（専任・特任）42名のうち、33名が科研費に採択または応募している。これらの事から外部資金獲得に積極的であることが伺える。</p>		<p>研究委員会・教授会において、継続して情報共有を行い、共同研究の推進及び研究活動の活性化を図る。</p> <p>2017年度以降の私立大学戦略的研究基盤形成事業への応募に向けて検討を行う。</p>			<p>3-11-9 総合数理学部ホームページ[ニュース一覧] http://www.meiji.ac.jp/ims/news/news2013.html 3-11-10 2015年度科学研究費助成事業・総合数理学部採択一覧</p>

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

教員の資質向上のための研修・諸活動(FD)の実施状況とその有効性							
<p>b ●教育研究, その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。</p> <p>(※)社会貢献, 管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」(3)教育方法で評価します。 【600～800字】</p>	<p>教員の資質向上のための研修等については, 本学の教員研修に対する取組みへの理解を深めるとともに自己啓発の意欲を高めることを目的として全学で実施する新任教員研修会への参加を促している。また, 2014年度は, 米国ネブラスカ大学オマハ校における英語による専門授業教授法の研修に2名の教員が参加した。</p>		<p>全学で実施している授業評価アンケートの活用や, 学部独自のFD活動について, 取組みが不足している。</p>		<p>教学委員会において, 教員の資質向上を目的として, 授業にかかわる情報交換を行うとともに, 学部独自のFD活動について検討する。</p>	<p>教学委員会において, 継続的にFD活動を行える仕組みを検討する。</p>	

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果

1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください			「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目		Alt+Enterで箇条書きに
(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。						
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	学則別表9に規定する「人材養成その他の教育研究上の目的」を踏まえ【4(1)-11-1】、これを実現するため、目指すべき人材像が備えるべき知識や技能、態度を明文化した学位授与方針を定め、科目を開設し、組織的に学習成果を担保するとともに社会の要請に応える人材の育成にあたる【4(1)-11-2:10頁】。課程修了にあたって修得しておくべき学習成果について、教育課程を通じて全学生が身に付けるべき論理的・科学的思考力や他者との協調姿勢を具体化した学部共通の到達目標として「多様な物事や幅広い情報を体系づけて整理し、筋道立てた推論や、多角的な見方ができる」をはじめ7点定めている。さらには専門教育を通じて身に付けるべき成果を示した学科到達目標も定めている。また、本学学則に定める期間在学し、所定の授業科目を履修し、かつ、124単位を修得した者に、現象数理学科及び先端メディアサイエンス学科は学士(理学)、ネットワークデザイン学科は学士(工学)の学位を授与する。					4(1)-11-1 明治大学学則別表9《既出1-11-2》 4(1)-11-2 2015年度総合数理学部便覧10頁《1-11-3》
(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。						
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育内容や教育方法の基本的考え方を明らかにした「教育課程編成・実施方針」を定め【4(1)-11-2】、教育課程の編成理念として、「社会に貢献する数理科学の創造・展開・発信」を掲げている。カリキュラムは、数理と情報を軸に学生の知的好奇心を高め、論理的・科学的思考力、応用力及び創造力が身に付くよう3領域に科目区分を編成し科目配置を行う。総合教育科目区分においては、今後の知識基盤社会を支える人材としての教養を養うことを、基礎教育科目区分においては、学部生に共通して必要な数理科学と情報科学の基礎的素養を養うことを、専門教育科目区分においては、専攻分野にかかわる科目及び思考力、表現力を鍛え、主体的に学ぶ姿勢を養うことを方針として科目を配置する。また、教育課程の特長として、各学科のカリキュラムの編成方針を明記している。					
b ●学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。 【約200字】	教育方法の基本的考え方は、3領域の科目区分において、総合教育科目区分においては、英語による情報収集力・読解力・プレゼンテーション能力や多様で幅広い学問分野を修得して多角的なものの見方ができる能力を養う。基礎教育科目区分では、論理的思考力や自然についての問題意識を培い、情報技術を活用する能力を身につける。専門科目区分では、数理と情報に基づく専門分野に関する知識を得る。全学生に対して必修として設置している「ゼミナール」や「卒業研究」を通してプレゼンテーション、問題発見、問題解決能力を養うと同時に、新たな分野に挑戦する力、日本語英語双方で専門に関する情報を収集・理解する力、コミュニケーション力を身につけるものである。 学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関については、教育課程を構成する3つの科目群を通じて、学位授与方針に定める学習成果を養うこととしているため、連関している。					

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果

1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画			
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述		
(3)教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか							
a ◎公的な刊行物, ホームページ等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	学部の教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は総合数理学部便覧に記載し, 学生, 教職員に配付しているほか, ガイダンスなどの機会に学生への周知を行っている【4(1)-11-3:9頁～12頁】。また, ホームページ上で公開し, 学生・教職員を含め広く社会に周知している【4(1)-11-4～7】。ホームページは方針とあわせて詳細項目が公開されており, 利用者が情報を把握しやすいように作成されている。 なお, 2013年度明治大学「学修環境に関する学生アンケート」によると, 学部の教育目標及び養成する人材像の認知度について, 調査学生のうち, 77.1%が「知っている」「だいたい知っている」と回答した。3ポリシーの認知度については, 42.9%が「知っている」「だいたい知っている」と回答した。					4(1)-11-3 2014年度総合数理学部便覧9頁～12頁《既出1-11-3》 4(1)-11-4 総合数理学部ホームページ[学部概要] http://www.meiji.ac.jp/ims/outline/index.html 4(1)-11-5 総合数理学部ホームページ[学位授与方針] http://www.meiji.ac.jp/ims/outline/policy_01.html 4(1)-11-6 総合数理学部ホームページ[教育課程編成・実施方針] http://www.meiji.ac.jp/ims/curriculum/policy_02.html 4(1)-11-7 総合数理学部ホームページ[人材養成その他教育研究上の目的] http://www.meiji.ac.jp/ims/outline/purpose.html 《既出1-11-4》	
(4)教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか							
a ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】	本学部の教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は, 学部の理念・目的に基づき, 開設前年の2012年度に策定した。これらの適切性については, 教授会の下に設置している執行部会及び教学委員会において, 教育研究活動に係わる検討事項を扱い, 検証を行える体制をとっている。学部は開設3年目であり, 今は教育目標を実現する過程にあり変更の必要性は生じていないが, 毎年度初回の教授会で人材養成その他の教育研究上の目的及び3ポリシーを確認することとしている。2015年度は4月9日開催の教授会において, これを行った【4(1)11-8】。		教育目標・学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の検証について, プロセスが具体化されていない。		教育目標等の具体的な検証プロセスや何を基に検証を行うか, 必要となる情報について検討する。	検証結果によって, 必要に応じて教育目標等を見直す。	4(1)-11-8 教授会議事録(2015年4月9日)《既出1-11-9》

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画			
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1)教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか							
必要な授業科目の開設状況							
a	◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	「社会に貢献する数理学の創造・展開・発信」という理念のもと、数理と情報の基礎を確実に身につけながら4年間の学習成果を社会の問題解決に生かすことができるように基礎から専門へと順を追って教育課程を編成している。そして、この理念を実現するために3学科を組織し、教育課程の編成・実施方針に基づき授業科目を体系的に編成している。 本学部の卒業に必要な単位は124単位であり、学位授与方針において掲げた学科到達目標の実現にあたって欠かせない科目を、必修及び選択必修科目として配置している。なお、完成年度において合計246科目を開講する予定である。内訳は、総合教育科目40科目、現象数理学の基礎教育科目25科目、専門教育科目46科目、先端メディアサイエンス学科の基礎教育科目21科目、専門教育科目45科目、ネットワークデザイン学科の基礎教育科目22科目、専門教育科目47科目である【4(2)-11-1】。					4(2)-11-1 明治大学データ集表17《既出3-11-7》
b	◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること 【200字～400字程度】	開設科目における教養科目の割合は各学科平均して37%であり、総合教育科目区分内に幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する科目を設置している。「人間に学ぶ」「社会に学ぶ」「環境に学ぶ」という観点で科目を開講し、専門に偏らない教養人としての資質を養い豊かな人間性を育むことを目的としている。					
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）							
c	●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】	順次性・体系的な履修への配慮として、カリキュラム体系表を学部便覧やホームページにおいて学科ごとに明記している【4(2)-11-2 29頁, 35頁, 41頁】【4(2)-11-3】。教育課程は大きく総合教育科目、基礎教育科目、専門教育科目の3つに区分され、基礎から専門へと順を追って学べるよう、授業科目を配置している。 1年次は主に総合教育科目及び基礎教育科目に配置している科目を履修する。2年次以降の学習の中心は、学科別に設置された専門教育科目である。専門教育科目は当該区分内において科目がどのような体系性や目的をもって配置されているかを学生が理解しやすいように学科ごと「便覧」に明示している【4(2)-11-1 28頁, 34頁, 40頁】。1・2年次の学びにより十分な基礎力を身につけたうえで3年次から研究室に所属し、専門性を深めていく。3・4年次配当の専門教育科目のうち、必修は主に演習・研究科目となる。なお、基礎から専門へと段階的に知識を積み上げていく一方、総合教育科目の配当年次を1年次から4年次にわたり設定し、専門科目と並行して履修することで視野を広げることを狙いとしている。 全学部生共通に数理と情報に関する基礎科目と英語を必修としているが、こうした主要科目の体系性について、プログラミング科目は、2・3年次に専門性を生かすためのプログラミング科目を多数配置し、知識と技術の定着を図ってる。英語は、専門分野のテーマについて英語でコミュニケーション・プレゼンテーションを行えることを目標として1年次から3年次まで必修として配置している。また、ゼミナール科目を1年次から必修として配置することで、教員と学生のむすびつきを強化している。					4(2)-11-2 2015年度総合数理学部便覧カリキュラム体系表29頁, 35頁, 41頁 専門教育科目の構成とその目的28頁, 34頁, 40頁《既出1-11-3》 4(2)-11-3 総合数理学部ホームページ[各学科カリキュラム・授業紹介] http://www.meiji.ac.jp/ims/subject/msbma/curriculum.html

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画			
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性							
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか【約400字】	教育課程の適切性の検証は、教学委員会において行っている【4-(2)11-4】。2014年度は、設置計画として掲げた教育課程を確実に履行するとともに、完成年度以降に改訂を行うことを視野に入れ、教育課程の適切さについて検証を行うことを決定した。 また、将来構想委員会を設置し、イングリッシュトラックの実施を含む国際化の方針について検討を行うこととした。	在学生に対する教育効果を高めることを目的に、設置計画の履行を前提にしながら、教育課程の検証を並行して行っている。		検証し、改善を図ることで、教育効果を向上させるとともに、完成年度以降に向けたカリキュラム改正の検討につなげる。			4(2)-11-4 2015年度総合数理学部学部に委員会一覧《既出3-11-6》
(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか							
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)							
a ◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。【1200字程度】 ※教育の内容そのものですので、しっかりと説明願います。	全学生に共通して求められる素養は、総合教育科目区分及び基礎教育科目区分に配置している科目を通じて養う。総合教育科目区分では、グローバル社会において必要とされる英語力と知識基盤社会を支える人材としての教養を教授する。特に1年次から3年次まで必修の英語科目では、2年次に英語文献活用スキルを、3年次にプレゼンテーションスキルを育成することを狙いとした授業を行っている。 各学科の授与学位にかかわる知識の教授は専門教育科目区分に配置している科目を通じて行う。 現象数理学科では、現象を数式にする「モデリング」、コンピュータを用いて現象にアプローチする「シミュレーション」、モデリングにより得られた数式を解析する「数理解析」の3つの複眼的手法を有機的に使う応用力と柔軟性を育む。学問としての知識を、その必要性を理解しながら学ぶことで、広く深く身につけることができるよう科目を編成している。科目を5つの区分に大別し、「現象数理の基礎」では現象数理学の基本を総合的に学ぶ。「コンピュータ数理」ではコンピュータシミュレーションの技法やそこで必要な数理と社会への応用を学びコンピュータを思考の一部として扱える力を養う。「社会数理」では様々なモデリング手法や、確率論、統計学などがどのように応用されるのかを学び、広範な知識と柔軟性を養う。「創造数理」では数理構造を構築する理論を学び、複雑な現象から新しい数理構造を紡ぎだすための知識を身につける。「演習・研究」では深い専門性と問題解決力、数理科学と社会を結ぶことのできるコミュニケーション能力や企画力を養う。 先端メディアサイエンス学科では、高度な情報技術に加え、社会や人間、文化など従来の理系分野の枠を超えた広い視野を身につけることができるよう科目を6つの区分に大別している。「概論・特別講義」ではメディア情報学の歴史から先端技術までを学び、「ブ						4(2)-11-5 2015年度総合数理学部シラバス

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>プログラミング」では演習・実習形式の講義を通じて幅広い内容のプログラミング手法を修得する。「情報技術」ではコンピュータのソフトウェア、ハードウェアの基礎から産業界で用いられている情報技術までを網羅的に学び、情報技術者として必要な知識を身につける。「メディア数理システム」では数理学や信号処理・解析法などを学び、メディアシステムを数理科学的にデザインし、コンピュータ上で実現する力を養う。「先端情報メディア・人間」ではコンピュータによる映像・音楽の作成や知覚心理学、アートデザインなどを学び、人の感性・主観評価を考慮したシステム及びコンテンツのデザイン能力を養う。「演習・研究」では4年間のゼミナール教育を通じて問題を分析する力、課題に取り組む力の他、発想力、企画力、プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>ネットワークデザイン学科では、数理、情報、工学をバランス良く学習し、実社会の様々なネットワークシステムにおける問題解決のための基礎的素養を身につけることができるよう科目を5つの区分に大別している。「ネットワークデザイン基礎」ではネットワークデザインの全体像を学び、学習の目的意識を高める。「ネットワークコア技術」では工学技術と基本情報技術を学び、ネットワークを構成する要素技術を理解する力とコンピュータを駆使してネットワークを解析、設計、制御する力を養う。「知能数理システム」では予測や最適化、学習理論などを学び、数理学と情報技術を駆使した実社会における現実的な問題解決力を養い、「ネットワークデザイン」では環境エネルギー、システムインテグレーション、社会・人間の3つの分野にある様々なネットワークについて学び、将来展望を描くことのできる力を養う。「演習・研究」では、ゼミナールや卒業研究を通じて、問題発見力と深い専門性、さらに文章表現力やコミュニケーション能力を養う。</p> <p>また、初年次教育として、1年次の必修科目「総合数理概論」において数理学・情報技術の役割をテーマとしたオムニバス形式の授業を行い学部理念の浸透を図っている。この他にも、アカデミックスキルの修得を狙いとして1年次春学期に「総合数理ゼミナール」を配置している。ゼミナール及び研究は全学科で必修科目として位置づけている。担当教員の指導のもと、自ら選択したテーマについて分析・体系化し、論文や作品等の成果としてまとめる力を身につけることを狙いとしている。</p>						
特色ある教育プログラムの内容とその効果(当該学部等固有のプログラムやGP探択事業など)							
<p>b ●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】</p>	<p>「社会に貢献する数理学の創造・展開・発信」という理念のもと、各学科、教育目標に沿った特色ある授業科目を配置している。現象数理学科は、数理学とコンピュータを密接に連携させた教育を行うため、全学生共通仕様のコンピュータを用いて授業を行っている。プログラミング演習などの情報科目だけではなく、数学の講義科目においてもコンピュータを取り入れた融合教育を行っている。また、1年次の「総合数理ゼミナール」におけるプレゼンテーションや「数理リテラシー」における論理力を鍛える演習を通じて、クリティカル・シンキング能力を培っている。</p> <p>先端メディアサイエンス学科では、1年次の必修科目である「プログラミング演習」において、学生をチームに分けて自ら課題を設定してそれを解決するプログラム作成を行うプロジェクト・ベースド・ラーニングを実施している。また、少人数ゼミナールを通じて指導教員の研究に参加することが可能であり、1年次から、理論を学ぶにとどまらず、実装能力を高めることができる環境となっている。このような教育の効果は、学会における研究発表を通じた受賞などの成果として表れている。</p> <p>ネットワークデザイン学科の1年次配当科目として開講している「フィールドスタディ」では、少人数セミナーでの事前学習後に企業見学を行い、得られた知見を発表形式で共有している。学生自身が将来像を具体的に見据えた上で、1年次から計画的に受講科目や配属研究室を選択するようになり、自発的な学びを引き出している。2015年度の履修者は24名である。</p>	<p>学生の主体的な学習が、学会での受賞などの成果として表れている。</p>	<p>学生の主体的学習をより促進する仕組みを検討する。</p>			<p>4(2)-11-6 総合数理学部ホームページ [ニュース一覧] http://www.meiji.ac.jp/ims/news/news2015.html 《既出3-11-9》</p>	

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画			根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する 発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	Alt+Enterで箇条書きに
学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果（学部間協定, 短期海外交流など）							
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の 達成状況を評価する項目です。							
学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果（学部間協定, 短期海外交流など） ●特色, 長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】							

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1)教育方法及び学習方法は適切か						
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態(講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等)との整合性						
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】	授業形態は、講義形式を中心に、科目の特性に合わせて演習形式および実習形式も多く取り入れている。専門教育科目区分における必修科目「演習・研究科目」は全て少人数による演習形式の授業を行っている。これは、導入教育から大学生活の集大成となる卒業研究指導までを行う全学生にとっての必修科目であり、学部教育にとって重要な役割を担っている。また、基礎教育科目区分における「微積分」や「線形代数」においても、学んだ理論について理解を深めることを目的として演習形式の授業を行っている。学部共通の必修科目である「プログラミング演習」や各学科の専門教育科目区分に配置されている科目の一部では、コンピュータを用いた実習を行う。これにより、基礎的な知識及び技術の確実な習得を図っている。					
b ●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】	各授業科目は、科目の特性や目的に応じて様々な教育方法を取り入れている。1年次の「微積分」では、入学試験形態によっては理系学部で必要とされる数学を十分に学んでいない学生も想定されることから、高等学校の学習範囲を含めて学ぶ基礎クラスを併設している。また、導入教育の役割を担う「総合数理ゼミナール」では、基本的なリテラシー能力の育成を狙いとして、レポート作成方法やプレゼンテーションの方法等を共通して取り入れている。1年次から3年次まで必修として配置している英語科目では、1・2年次はTOEIC®試験のスコアを利用した習熟度別クラス編成を行っている。3年次は学科別にクラスを編成し、英語によるプレゼンテーションスキルの向上を狙いとして授業を行っている。「プログラミング演習」等プログラミングやコンピュータシミュレーションを学ぶ科目ではパソコンを設置したメディア教室等を利用して授業を行っている。通常の授業は週1回、15週の期間で行われるが、一部の科目では、週2回、8週の期間で授業を行っている。これにより集中的にプログラミング技術を学び、これにより関連科目への理解も深められるという効果が得られている。メディア教室以外の教室で行う授業科目でも、個々にPCを活用する授業を行っている。現象数理学科では、必要なソフトウェアを搭載した学科共通仕様のパソコンを導入し、数値シミュレーションを行う授業でこれを活用している。3年次から取り組む卒業研究では、教員の指導の下で、自ら選択したテーマについて分析・体系化し、論文や作品等の成果として提出する。実験室等を整備し授業時間外においても研究に取り組むことのできる環境を整えている。					
履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導(個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等)の工夫						
c ◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。(学部) 【約200字】	1年間の履修科目登録の上限単位数は、1年次から4年次まで再履修科目を含め、それぞれ46、49、46、42単位と定め、単位の実質化を図っている。3年次への進級にあたり、2年次修了までに卒業に必要な科目から60単位以上を修得すること及び各学科の必修科目の修得条件(現象数理学科は46単位中28単位以上、先端メディアサイエンス学科は演習・研究の8単位中6単位以上、ネットワークデザイン学科は52単位中32単位以上)を定めている【4(3)-11-1:15頁】。					4(3)-11-1 2014年度総合数理学部便覧15頁 《既出1-11-3》
d ●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィスアワーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字~400字】	履修指導ガイダンスは、授業が開始される前の学習指導週間を利用して、各学年・学科ごとに実施している。新入生に対しては、履修指導の他、施設利用や学生生活全般についてのガイダンスも行っている。職員と教員がそれぞれ説明を行い、履修手続から学習内容に関する事項を含めた説明を行っている【4(3)-11-2】。 学習状況の把握については、英語や微積分、ゼミナール等の必修授業の出席状況を確認し、その情報は科目担当者会議を通じて教員間で共有している【4(3)-11-3】。 また、学習支援の一つとして、数学、情報、理科の科目について、大学院生TAによる支援を行っている。2014年度は270名の利用があった。学習に関する質問内容は、TAが対応について記録し、これを教学委員で共有している【4(3)-11-4】【4(3)-11-5】。					4(3)-11-2 総合数理学部2015年度新入生・在学生ガイダンス日程 4(3)-11-3 2014年度微積分担当者教員会議報告、英語教員会議報告 4(3)-11-4 総合数理学部学習支援実施案内 4(3)-11-5 中野学習支援室利用状況 4(3)-11-13 学習支援質問票

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p>C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p>			「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目		Alt+Enterで箇条書きに
<p>学生の主体的参加を促す授業方法(学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等)</p>						
<p>e ●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】</p>	<p>学生の主体的参加を促す授業方法については、学部教育の核となる情報科目において、授業内に教員の他に複数のTAを配置し、パソコンの操作方法などの疑問をその場で解決出来る環境を整えている。情報科目以外にも、微積分、線形代数などの数学関係の必修科目には、複数のTAを配置し、演習問題の解法などの質問に対応することで、学生個人の理解度に合わせた授業を行っている。また、1年次の必修科目である「総合数理解論」では、学部が対象とする中心的な学問領域の理解を助けることを目的として、数理学と情報技術についての身近な例を題材(2015年度春学期は携帯電話・スマートフォン)としたオムニバス講義を行っている【4(3)-11-6 46頁】。所属学科以外の専任教員による講義を聴くことで、専門分野の有機的なつながりの理解を促している。さらには、各学科科目にもオムニバス講義が配置されており、先端研究にかかわる講義を通じて、学習の動機付けを高めている。</p> <p>また、各学科における取組として、現象数理学科では、正課授業外で学生自らがテーマを決め、それに興味をもつ複数の学生で自主的に勉強会を実施しており、疑問等が生じた場合は関係する教員にアドバイスを求めることができる取り組みを行っている。先端メディアサイエンス学科では、学生が自ら制作したプログラミングの成果発表会を実施し、全員がプレゼンテーションを行う機会を設けている。ネットワークデザイン学科では、総合数理解論の課外授業として、本学セミナーハウスを利用しての合宿を行い、学科の扱う学問領域に対する理解を深める取り組みを行っている。</p>					4(3)-11-6 2015年度総合数理学部シラバス46頁《既出1-11-8》
<p>(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか</p>						
<p>a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】</p>	<p>シラバスは、開講される全ての科目について、科目名と担当者のほか、授業の概要・到達目標、15回の授業内容、履修上の注意・準備学習の内容、教科書・参考書、成績評価の方法等について、統一した書式を用いて作成している。特に、成績評価については定量的な記載を促している。</p> <p>また、本学部ではシラバスの内容に変更がある場合には、初回授業で連絡および掲示することとしている。シラバスは冊子として作成し、入学時ガイダンスで配布している他、大学HP及び「0h-o!Meiji」システムからもオンライン閲覧できるように整えている【4(3)-11-6】 【4(3)-11-7】。</p>					4(3)-11-6 2015年度総合数理学部シラバス《既出1-11-8》 4(3)-11-7 0h-o!Meijiシステムログイン画面(シラバス検索) https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index
<p>b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】</p>	<p>シラバスの到達目標の達成度について、授業改善アンケートの「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」の項目を通じて調査している。これらの項目についての数値は、2014年度のアンケート集計では、「思う(強)」から「思わない(強)」の5段階評価で、前期は「思う(強)35.8%」「思う(弱)28.3%」「ふつう31.7%」「思わない(弱)2.1%」「思わない(強)0.8%」、後期は「思う(強)34.2%」「思う(弱)30.6%」「ふつう32.1%」「思わない(弱)1.8%」「思わない(強)0.6%」という結果であった。これらの数値から、シラバスに基づいた授業展開がなされていることが伺える【4(3)-11-8】。</p>		シラバスと授業との整合性の検証について、検証が不足している。		教学委員会において、シラバスと授業との整合性について、検討を行う。	4(3)-11-8 2014年度学生による授業改善のためのアンケート集計結果(各学部)
<p>c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>シラバスの記載内容について、客観的な視点で内容を確認することを目的として、校正時に教学委員が確認を行っている【4(3)-11-9】。</p>		恒常的に検証を実施し、改善につなげる仕組みが不足している。		教学委員会において、シラバスの検証及び授業の改善方法について、検討を行う。	4(3)-11-9 2014年度総合数理学部学内委員会一覧《既出3-11-6》

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画				
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述			
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか								
a	◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】	授業科目の1単位は、授業時間と学生の自習時間を合わせて1週3時間、1学期15週、合計45時間の学習活動が必要であるとしている。成績評価については、S、A、B、C、Fの5段階(C以上が合格)で評価した上で、GPAに換算する制度を採用している。いずれも、便覧に明記し学生に周知している【4(3)-11-10:25頁「2学業成績」】。 成績評価に対する学生の疑義については、学期毎に期間を設け、事務局を通じて担当教員に問い合わせをし、結果をフィードバックしている。					4(3)-11-10 総合数理学部便覧「2学業成績」 《既出1-11-3》	
b	◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】	学生が外国の協定校や認定校に留学し修得した単位については、教授会の議を経て明治大学学則第28条の2に基づき、本学の単位として認定することとしている。他大学からの編入学生の既修得単位についても、学則第20条の4に基づき、教学委員会において適切性を確認し、教授会の議を経て認定することとしている【4(3)11-11】。					4(3)11-11 明治大学学則第20条の4及び第28条の2	
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか								
a	◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした組織的な研修・研究の機会について、英語や微積分などの必修科目で複数の教員が担当する科目に関しては、科目毎に担当教員による連絡会を設けるなどして、授業内容の充実や進捗管理を行っている。欠席者の情報や学生が陥りやすい間違い等の情報を共有し、授業改善につながる工夫を行っている【4(3)11-3】。 学生の学習の基礎となる数学、理科及び情報の科目については、学習支援を行うTAを配置し、質問対応を行っている。また、質問内容や対応については、TAが記録を作成し、これを教学委員会で共有している。					4(3)-11-3 2014年度微積分担当者教員会議報告、英語教員会議報告	
b	●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	2014年度は春学期39コマ、秋学期41コマが授業アンケートを実施した。学年進行に伴う開講科目の増加に伴い、2013年度の実施数(春学期24コマ、秋学期13コマ)を上回った。アンケート実施対象教員74名のうち38名が実施し、教員数による実施率は51.4%、専任教員の実施率は47.8%であった。		実施数は昨年度を上回ったが、更に実施率を高めることが望ましい。		教学委員会において、アンケートの実施及び有効的な活用について、検討を行う。	授業アンケートを活用し、授業改善に取り組む。	4(3)-11-12 明治大学データ集表29《既出3-11-7》
c	●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	教育内容・方法等の改善検討は、学部教授会の下で、教学委員会(教務主任2名、一般教育主任1名、各学科の教学委員各2名の構成)を常設委員会として設け、教務全般の問題を検討する場としている。本委員会のメンバー及び権限・活動については、本学部教授会にて承認している。また、学部内委員として教学委員を各学科2名選出し、各学科の教学関係の調整に係る事項を担当している。	教学委員を中心として、クラス編成や開講コマ数の増減について検討し、学生数や学習状況に合わせた授業計画の策定を行っている。	教育内容・方法の改善について、時期やプロセスが明確になっていない。	検証し、改善を行うことで、教育効果を高めるとともに、完成年度以降に向けたカリキュラム改正の検討につなげる。	教学委員会において、教育内容・方法の改善時期やプロセスについて、検討を行う。	教育内容・方法について検証し、改善に取り組む。	

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1)教育目標に沿った成果が上がっているか							
a	●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】	学位授与方針において課程修了にあたっての具体的到達目標を学科ごとに示し、単位授与によってこれら学力の達成度を学習成果の評価指標として測定し、確認することが可能である。					
b	●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。 ●学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。 ●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。 【約800字】	本学部は、2013年度に開設した学部であるため、卒業生を輩出しておらず、学位授与を行っていない。なお、少人数で教員の専攻分野に基づき学習を行うゼミナール及び4年間の学習成果を卒業研究としてまとめるための研究科目(現象数理研究、先端メディア研究、ネットワークデザイン研究)を必修科目に配置している。					
c	●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか 【約400字～600字】	学生の大学に対する評価に関連して、2014年度は80の授業科目において、授業改善アンケートを実施した【4(4)-11-1】。					4(4)-11-1 明治大学データ集表29《既出3-11-7》
(2)学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか							
a	◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	進級及び卒業にかかわる要件について、総合数理学部便覧【4(4)-11-2 16～17頁】に明示し、入学時に学生に配布している。					4(4)-11-2 2014年度総合数理学部便覧16～17頁《既出1-11-3》
b	●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】	卒業の判定にあたっては、学則に定められた修業年限及び要件を満たした学生について、「学部教授会」で審議し、決定する。					

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第5章 学生の受け入れ

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p>(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか(「AP」の全文記述は不要です)</p>						
<p>求める学生像の明示及び当該課程に入学するに当たり修得しておくべき知識等の内容・水準の明示及び社会への公表</p>						
<p>a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】</p>	<p>総合数理学部の入学者の受入方針において、求める学生像として次の3点を定めている。 ① 本学の建学の精神「権利自由・独立自治」に基づき、世界を見据えて自らの使命、役割を自覚し、他者との連携・共生をはかりながら、自らの「個」を確立できる学生 ② 社会や自然における事象に広く関心を有し、数理科学の探究に挑戦する意欲を持ち活力にあふれる学生 ③ 人とかかわりに積極的な姿勢を有し、人と社会に豊かさをもたらす新しい概念・価値観を生み出していこうとする意欲のある学生 また、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準として、特に高等学校における数学及び英語学習の基礎を確実に習得しておくこと、概念の必要性に疑問を持つなどの批判的な学習も求められること、グローバル化の加速する現代において高校段階での英語を確実に修得することを明示している。 入学者の受入方針の公表について「入学試験要項」及び大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している【5-11-1:9頁】【5-11-2】。</p>					<p>5-11-1 2015年度明治大学入学試験要項(学部一般入試, センター利用入試, 全学部統一入試)9頁《既出1-11-6》 5-11-2 総合数理学部ホームページ[入学受入方針] http://www.meiji.ac.jp/ims/outline/policy_03.html</p>
<p>障がいのある学生の受け入れ方針と対応</p>						
<p>b ●該当する事項があれば説明する 【約200字】</p>	<p>2015年度自己推薦特別入試において、視覚障がいの方が1名受験した。受験時の配慮について、大学全体の対応に準じた対応を基本とした上で、受験者本人と連絡を取り、可能な限り希望する状況・状態で受験できるよう配慮した。</p>		<p>障がいがあり、配慮を必要とする受験生からの申請期日について、検討が必要である。</p>		<p>配慮を必要とする受験生からの申請期日を見直し、組織として対応を検討できるようにする。</p>	<p>入試実施及び入学後の配慮申請への対応について、関係部署が適切に連携を図り、意思決定が行われるよう課題の整理を行う。</p>
<p>(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学選抜を行っているか</p>						
<p>a ●学生の受け入れ方針と学生募集、入学選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に学生募集及び入学選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか) 【約400字】</p>	<p>入学試験では、学力試験を課す一般入試(一般選抜, 全学部統一, 大学入試センター試験利用入試前期及び後期), 筆記試験だけでは評価できない能力を有する者の応募を期待して, 高等学校での学習・活動実績と面接試験も評価対象とする特別入試(自己推薦, スポーツ)及び推薦入試(指定校, 付属校)を実施し, 多様な受験機会を設け, 入学者の受入方針に即した学生の受入れを行っている【5-1-3 3頁】。定員及び選抜方法は, 学部教授会において審議・決定している。 試験の実施にあたっては, 一般入試は学部長を本部長として, 全学役職者等とも連携して本部体制を構成している。特別入試は試験毎に選考委員会を設置するとともに, 実施及び判定プロセスについて教授会にて審議・決定している。</p>					<p>5-11-3 2016年度明治大学入試データブック3頁</p>

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第5章 学生の受け入れ

(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか								
収容定員に対する在籍学生数比率の適切性								
a	<p>◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。また、学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。</p> <p>◎学部・学科における編入学定員に対する編入学生数比率が1.00である(学士課程)。</p> <p>【約200字】</p>	<p>入学定員に対する入学者数比率について、2015年度は学部全体で0.91倍、現象数理学部は0.92倍、先端メディアサイエンス学部は0.96倍、ネットワークデザイン学部は0.83倍である。3カ年の平均は、1.21倍、1.27倍、1.29倍、1.04倍である【5-1-4 表35】。</p> <p>収容定員に対する在籍学生数の比率は、1.2倍、1.26倍、1.28倍、1.04倍である。</p> <p>学部及び全学科において、収容定員に対する在籍学生数の比率及び入学定員に対する入学者数比率、いずれも前年度と比較して改善されている。【5-11-5 表4】</p>	<p>収容定員に対する在籍学生数の比率及び入学定員に対する入学者数比率が改善された。</p>	<p>過去3カ年の入学定員に対する入学者数の比率及び収容定員に対する在籍学生数の比率について、いずれも現象数理学部と先端メディアサイエンス学部の超過率が1.2倍を超えている。</p>	<p>継続して、過年度の歩留まりデータに基づき、合格者数を精査の上で決定する。</p>	<p>過年度の歩留まりデータに基づき、合格者数を精査の上で決定し、超過率の改善を図る。</p>	<p>全体の計画に支障をきたさないよう、計画的に超過率の改善を図る。</p>	<p>5-11-4 明治大学データ集表4 5-11-5 明治大学データ集表35《既出3-11-7》</p>
定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応								
b	<p>◎現状と対応状況</p> <p>【約200字】</p>	<p>入学定員に対する入学者数の比率及び収容定員に対する在籍学生数の比率の超過は、入学試験実施初年度の2013年度において、歩留まり状況が予測できない状況にあったことが主要な原因である。定員超過に対しては、一部の授業のコマ数を増やすなどして、学生の修学環境に影響が出ないように対応した。なお、2014年度以降、超過率は改善されている。</p>						
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか								
a	<p>●学生の受け入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。</p> <p>【400字】</p>	<p>入試制度及び実施に関する事項は、学部の常設の「入試委員会」において検討し、教授会に諮っている。2014年度は6回の委員会を開催し、志願状況の推移を鑑みて、入試形態別募集人員や特別入試要項の検討を行った。</p> <p>入学者受け入れ方針は、教職員間で改めて共有することを目的として、4月9日開催の教授会において、確認を行った【5-11-6】。</p>		<p>自己推薦入試において、求める学生像とのマッチングをより的確に行えるようにする必要がある。</p> <p>また、現在実施している入学試験制度について、制度上の改善点や求める学生像との整合性について検証が必要である。</p>		<p>入試委員会において、2016年度自己推薦入試の出願資格及びエントリーシートのテーマの見直しを行う。</p>	<p>入試委員会及び教授会において、入試制度改革に向けた検証のプロセス及びその適切な組織について検討を行う。</p>	<p>5-11-6 教授会議事録(2014年4月9日)《既出1-11-11》</p>

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第6章 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください					Alt + Enterで箇条書きに	
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか								
a	●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	常設委員会として修学支援を取り扱う学生支援委員会、学習支援を取り扱う教学委員会を設置している【6-11-1】。 2つの委員会で取り扱う事項は密接に関連していることから、必要に応じて、各委員がオブザーバー等で出席し、情報を共有している。また、これらの委員会で検討された事項を、教授会で審議・報告することで教職員間で共有を図っている。 2013年度は学生支援委員会を6回開催し、修学支援方法を審議し、指導の実施を決定した。開設1年目であることから、支援に対する方針や内容等を規定化することはせず、学生の単位修得状況等を鑑みながら、指導内容、方法、時期等について検討を行った。		個々の学生の状況を鑑みながら対応を決定しており、基準が確定していない。		修学指導について、過年度の実施内容や指導方法の検証を学生支援委員会で行う。	修学指導方針、基準を定め、教職員間で共有する。	6-11-1 2015年度総合数理学部学部内委員会一覧《既出3-11-6》
b	●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留学者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	本学部では、全学生を対象として、新年度学習指導期間を利用した履修相談及び、学習効果を高めることを目的とした大学院生TAによる学習支援を実施している【6-11-2】。また、1年生科目の再履修などで2年生の科目を時間的に受講できない学生に対しては、当該科目の別クラスを設けることにより、単位過少者の減少を図っている。 単位修得不足学生等については、機会を設けて修学指導を行っている。具体的には、取得単位数及び修得科目を根拠に基準を定め、該当する1年生は後期開始時のガイダンス時に、2年生は春学期開始のガイダンス時において教員が面談を行っている。 休退学者等の学籍異動については教授会にて報告し、情報を共有している。 本学部は、ゼミナールや研究科目が全学科で1～4年生まで14単位以上必修科目として配置されており、修学支援、学生支援の取り組みについて担当教員が学生からの意見抽出を行なうことのできる機会が多いと言える。 また、特別入学試験の合格者に対して、入学後の学習がスムーズに進むように、合格から入学までの期間、数学及び英語の課題を課している。受講者に行ったアンケートからは、習慣的に学習に取り組むことができるようになった等の感想が得られている【6-11-5】。	単位取得不足学生への修学指導を教員が直接行うことにより、次学期や次年度の学習態度や単位修得に改善が見られた学生がいた。また、教員間で学生情報を共有することが、休退学の事前防止のための働きかけに役立っている。 オリエンテーション行事の実施は学修意欲の向上維持や、学生間、教員との親睦を深めることのできるなどの点において有効な取組である。	毎学期修学指導対象となる学生がおり、この数を減らすために、より効果的な指導方法について検討する必要がある。 また、学籍異動のうち、可能な限りその理由を把握できることが望ましい。 障がい学生に対する支援窓口が決まっている。	継続して修学指導及びオリエンテーション行事を実施していく。	修学指導内容及び方法を検証し、組織的な修学指導体制を構築する。 障がい学生の支援窓口を決定する。また、障がい学生に個別ヒアリングを実施し、要望を確認し、学部としての対応について検討する。	修学指導の実施により、休退学者の事前防止を図るとともに、学部として適切な学生支援を実施する。	6-11-2 2015年入学前教育プログラム実施結果報告書16頁
(2) 学生の進路支援は適切に行われているか								
a	●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	2013年度から、キャリア支援に関する事項を扱う就職キャリア委員会を常設委員会として設置し、2014年度から本格的な活動を行った。 学部は完成年度を迎えておらず、学生の進路動向を確認しながら進路支援方針を策定している段階にあるが、2014年度は4回にわたり開催した委員会において、学部のキャリア支援の現状と見通しについて意見交換を行い、支援行事等について検討した【6-11-3】。就職キャリア委員会における審議内容は、教授会において報告することで、教員間で共有を図っている。	委員会設置により、検討を要する項目及びその見通しが明らかになった。		就職キャリア委員会における決定事項を実施するとともに、修学支援方針・進路支援方針について明文化する。			6-11-3 総合数理学部就職キャリア支援関係検討項目一覧
b	◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	キャリア支援活動の方針や意思決定は、就職キャリア委員会が中心となり学部として行う一方で、実施については、就職キャリア支援センターと連携してこれを行っている。 2015年4月には、1年生に対しては新入生ガイダンス時に、2年生に対しては学科別ガイダンス時に、大学生活とキャリア形成についての説明や正課科目であるキャリア支援講座の説明を行った。3年生に対しては、学科ガイダンス時に大学が行うキャリア支援行事について案内した他、就職活動のスケジュールや対象企業が求めるスキルなど、学科固有の事例にも触れながら説明を行うことで、就職活動への意識の顕在化を図った。また、進路希望調査を行い、学生の進路動向を確認した【6-11-4】【6-11-5】。	委員会で策定された計画に基づき、学年及び学科に合わせたキャリアガイダンスを行った。		継続して学生のニーズに合った支援行事について検討を行うとともに、カリキュラムやガイダンスを通じて、進路選択を見通しを与えるとともに、職業観の涵養を図る。			6-11-4 ガイダンス期間における就職ミニガイダンスについて 6-11-5 進路・就職希望調査

2014年度総合数理学部 自己点検・評価報告書

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の 達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	Alt+Enterで箇条書きに option+command+Enter
(1)大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか							
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表 していること 【約400字】	総合数理学部における自己点検・評価は、学部に設置された自己点検・自己評価委員会によって行われている。学部長、教務主任の他、学科長、各学科の委員の計8名によって構成している【10-11-1】。メンバーには、入試やカリキュラム等の責任者である教務主任の他、各学科の学科長が参画することで、評価結果を学部・学科教育の改善に活かしやすい体制を構築している。 2014年度は「2013年度総合数理学部自己点検・評価報告書」を作成した他、公益財団法人大学基準協会の大学評価受審に伴う対応を行った。同報告書は2014年10月9日開催の教授会審議に付し、その後全学の手続を経て、ホームページで公開している【10-11-2】【10-11-3】。 なお、2014年度の自己点検・評価実施にあたっては、点検及び評価の実質化をはかるため、点検項目に関連する委員会の委員長を点検・評価担当者に加え、2015年5月現在、これを行っている。						10-11-1 2015年度総合数理学部学内委員会一覧《既出3-11-6》 10-11-2 教授会議事録(2014年10月9日) 10-11-3 明治大学ホームページ「大学評価－学部等自己点検・評価報告書」 http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/2012/2.html
(2)内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか							
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	総合数理学部の内部質保証の基本方針は、「自己点検・自己評価委員会」を責任主体とし、同委員会は評価結果を学部長に報告するものとしている。教育活動への反映は、学部長の決定した方針に基づき、学内各委員会が担うこととしている。		学内委員会における課題検討のスケジュールや進捗状況について、更なる情報共有が必要である。		各委員会において、課題及び検討スケジュールを整理し、可視化する。	自己点検・自己評価委員会において、内部質保証システムを適切に機能させる仕組みを検討する。	